

# 熱いぞ! さいたまの ものづくり

◎有限会社 岡半

## 手作りの良さを伝えるものづくり 雛飾りをさりげなく引き立てる造花製作

(有)岡半は、全国的にも数少ない日本人形用の造花・小道具製作一筋に営業している会社です。創業は1922年。桜橘、紅白梅をメインに、正月、桃の節句、端午の節句に飾る日本人形に付属する各種造花を手がけ85年の伝統を誇ります。受注生産を基本とし、複雑多岐にわたる制作工程すべてを手作業で行ない、繊細かつ微妙な細工に匠の技術が光ります。

「時代の変化とともに、伝統工芸品も少しずつ変化していますが、『真面目に一所懸命』ごまかしのない仕事を常に心がけています」と、職人でもある3代目の岡田雄二さん。現在も技術の向上のために、京都の伝統工芸士を訪ね、自己研鑽に努めるなどの甲斐もあり、「造花といえば岡半」と全国の人形専門店、人形師などからの厚い信頼を得ています。

また、同社では長年培った技術を応用し、「和」をテーマとした小鉢盆栽や壁飾り等、インテリアとして楽しめる新製品の開発にも力を入れています。「作り手だからこそ、良い作品を作り上げ、後世に自分の生きた証を残したい」と、また、多くの方に手作りの良さを伝えたいという熱い思いが、1つ1つの製品に込められています。



▲雛飾り用の造花「桜橘」。

▲五月人形の手持ち造花。

▶作業風景。各製品を作り上げるための仕込み作業は年間を通し行なっています。



住 所：さいたま市緑区太田窪 3-2-8  
 T E L：048-882-8294  
 F A X：048-882-8375  
 U R L：http://www7a.biglobe.ne.jp/~okahan/  
 事業内容：雛人形用等の造花製造

地域ブランド  
再発見  
Vol.2

# 世界に誇る文化財産 岩槻人形

このページは、さいたま市の「地域ブランド」をご紹介します。

第2回目は、江戸時代から続く伝統的工芸品「岩槻人形」について、岩槻人形協同組合理事長の戸塚 隆氏(株)東玉 代表取締役社長)にお聞きしました。



▲岩槻人形協同組合理事長  
戸塚 隆氏

## 岩槻人形の歴史について

岩槻人形の歴史は、江戸時代初期より約380年の伝統を誇ります。当時、城下町として栄えたこの地に、日光東照宮の造営に携わった工匠、仏師が住み着き人形づくりを始めたのが最初といわれております。今もこの岩槻は

全国一の人形職人を抱え、昔ながらの技術を守りながら、1つの人形制作を企画にはじまり、頭(かしら)・衣装(胴体)・手足・小道具に分業しながら手作業で行ない、現在、全国一の生産高を誇る埼玉県の伝統産業となっています。

## 人形協同組合での取り組み

現在の当組合の会員数は85社。人形業界の発展はもとより、伝統技術を継承するための後継者・職人の育成を図るとともに、伝統行事である雛まつりなど節供行事の振興、岩槻人形のイメージアップを目的に活動を行なっています。現在、経済産業大臣指定「伝統的工芸品」として江戸木目込人形が認定をされていますが、当組合で準備を重ね、新たに「衣装着」岩槻人形も、2007年3月に国の厳正なる審査を経て伝統的工芸品に認定される予定です。その他、年間を通し、人形にまつわる各種イベントを開催しています。大きなイベントとしては全部で4つあり

ますが、どのイベントも多数の来場者があり、毎年大変盛況に行なわれているのは、地道に継続してきた成果の現れかと考えます。

今後も、地域に根ざしたイベントを積極的に情報発信していくことで、「岩槻=人形の町」の知名度を上げていきたいと考えています。

## 岩槻人形会館建設(仮称)への期待

地域を挙げ、長年にわたり熱望していた人形会館が、岩槻城址公園の約9,000㎡にわたる用地に本格的に建設が予定されることになり、誠にうれしく思います。単に博物館や美術館的なものでなく、「人形」という地域資源を題材に、人形文化の向上、また、同市が進める観光振興の「顔」となるよう期待をしています。多くの方々に人形の魅力を知っていただき、岩槻人形を日本の文化に乗せ、世界のブランドとして発展していくことを望んでいます。



▲3月に国の伝統的工芸品に認定される予定の「衣装着」岩槻人形。

## 往時をしのぶ華やかな祭り! 人形にまつわる主な歳時



▲春の伝統行事流しびな。



▲夏の岩槻まつりに登場するお雛さま衣装。



▲11月3日に行われる人形供養祭。